



落

語家の芸名を高座名という。うちの塾なら本名で高座に上がっても差し支えないが、やはり高座名を名乗るといっただけでスイッチが入る。だから、落語教室に入ると決まったら、真っ先に考えるのは高座名である。プロの落語家だと、名付けは師匠の専権事項で「お前はこれ」と上意下達で与えられることが多いらしい。うちの教室はもちろんプロでもないし、それを目指すでもないから、高座名は本人や家族に考えてもらうことにしている。そう言ってもゼロから作るのはいやなので、好きなものを言わせてその中から選ぶことが多い。愛着のあるものを名前にするばらしいだろうと思うのと、名付けの理由をマクラで語ればその子らしさを端的に表現できるからである。

高尾小学校である子に好きなもので名前を考えておいでと言った翌日、

「お肉にします」
 と言ってきた。お父さんお母さんと話し合ったか、と聞いたら黙ってうなずいた。好きには違いないだろうが、名前としてどうなのか。真っ先にうかんでくるのは、焼き肉やすき焼き、ステーキではなく、スーパリーの精肉コーナーだ。生々しすぎる。

「うーん、やめとこうか。次に好きなものはなに？」
 心苦しかったが「おにく」は断念してもらい、二番

目を聞いたところ「おすし」と答えた。肉がだめなら魚ということか。少なくとも鮮魚コーナーが浮かんでは来なかったから、それでいいこととなってそれ以降彼は、「おすし」を名乗った。すしの中でもウニが一番好きだが家族と行っても安いネタしか食べないからあんまり食べたことがない、とマクラで語っていた。松江で落語会に呼ばれてうまく高座を務めたら、回転寿司に寄ってウニを食べる、という目標をかかげたが、意外に早くそれは実現した。その後、それがどれだけうまかったかマクラで語るようになった。

おすしと同時期「はーぶ」を名乗った子がいた。これは落語を始めた頃にハーブ栽培をしていたからで、他に考えられないという熱の入れようだった。ぼくはまったく関心がなく、彼の説明も上の空で聞いていたが、好きならば努力せずとも知識がつくのだと感心した。しかし、一年経つと急速に熱が冷め、それ以降、「人間は、飽きます。だから今の名前は、荒れ野、または草だけです」

と自嘲気味のマクラで人の真理を突きつつ、客席を沸かせていた。
 高座名といえど、単なる記号であることに抗う力を孕み、本人の意思を越えていくから、決してなおざりにはできない。(この稿続く)

北海道への旅、三度目
木幡智恵美

16

自分が意識しないうちにことが起こってしまったという、得体のしれない恐怖感。高齢者がアクセルとブレーキを踏み間違えて事故を起こしたというニュースをたまに耳にする。不幸な場合には死傷者が出、訴訟事件に発展することも。私は全く同じことをしてしまったのだ。きつと、その人たちも、何が起きたのだろう、なぜこんな事態になったのだろうと、その時何が何だか分からなかったのではないだろうか。あれが、車庫入れでなく道路を走行していた時だったら…。孫たちを乗せていたことを思うと、背筋が凍りつく。夜娘に連絡して孫たち二人の様子を尋ね、翌朝も何か変わったことはないかと電話を入れた。

「二人とも何ともないよ。ごめんね、私があればこれ頼むから、お母さんを混乱させたりじゃないかと思って」と娘は言ってくれるが、ああいうことを起こしたのは紛れもない私だ。雨で外に歩きにも出られず、同じようなことが頭の中を何度も何度も巡った。昼前に二男が連れ合いと息子を連れて顔を出した。昨日の夕方車屋さんが壊れた車を取りに来られたので、車庫にはテールライトカバーが欠けたカブが残り、支柱が凹んだカーポートの姿が露わになっている。床のセメントにはブレーキ痕が濃く刻まれ、ブロック塀が壊れている。その惨状を見て、息子は言った。「お袋、免許返せ」。返す言葉はない。もともと運転は好きでない。夫や息子を乗せることがあると、助手席でいららしている様子が伝わってくる。運転などしたくないから本心免許を返したい。ただ、武道館に行くことを辞めるわけにはいかなかった。今の健康を維持するのに、心がすっかり老化してしまうのを防ぐのに、足腰が立つ間は武道館で汗を流したい。運転は武道館通いだけにし、あとは夫に乗せてもらおう。そして、自分が運転する際は、絶対に人を乗せまいと決めた。

翌日も心が落ち着かず、印刷したり、料理をしたり、何かをし続けていた。歩きに出ても全く疲れを感じない。何かにかき立てられるように歩き続けた。と、突然つるつと足が滑った。うん？この感覚は？あの何が起きたか分からなかった時に一瞬覚えた感覚が蘇る。急いで家に帰り、靴を脱いで裏返した。何だ、こりゃあ！

30代フリーター バイデンが大統領選から撤退し、副大統領のハリスがトランプと戦う見通しになった。

年金生活者 いま最も可能性が高いのはトランプの返り咲きだ。それは、「分断」を深めてきたアメリカ社会が「統合」へ向かう転換点になるだろう。対外的には帝国主義的な構えを強め、最大の敵である中国との覇権争いをエスカレートさせるだろう。

30代 トランプのもとで「統合」などあり得るのか。

年金 銃撃で負傷した5日後、共和党全国大会で大統領候補への指名を受諾する演説をしたトランプは国民の「団結」を訴えたと報じられている。さらに、過去の党大会では必ず強調された人工妊娠中絶への反対や銃所持の権利の擁護など、無党派層などからの反発につながりやすい主張に彼は言及しなかったとも伝えられ、「統合」をはかろうとしている姿勢がうかがえる。

30代 選挙向け、さらに政権運営上の都合で言っているだけじゃないの
易主義への傾斜は、南北戦争で保護貿易を主張した北部が勝利し、アメリカが帝国主義化した歴史を想起させる。柄谷行人が「帝国主義的」な段階と規定した現在の世界は、「帝国主義」のアメリカと「帝国」の中国のせめぎ合いが常態化するだろう

30代 迷惑な話だ。

年金 トランプがアメリカを再び偉大な国にする道と考える中国との戦いは、新しい「帝国主義戦争」ととらえることができる。1世紀前にレーニンが定義した帝国主義戦争との最大の違いは、あの当時のような流血の戦争ではなく、無血の戦争として戦われるだろうということだ。

ただし、局地戦としてなら、流血の戦争となる可能性はある。その最大のものが台湾有事だ。しかし、仮にそれが起きたとしても、全面戦争にエスカレートする可能性は薄い。核の脅威と通常兵器の使用による経済的な損失のリスクが歯止めになるからだ。このことは、米中の無血の戦争が経済を最大の武器として戦わ

か。

年金 彼の演説は口先だけにとどまらず、1世紀半ほど前の南北戦争の終結後、アメリカが現在よりも深かった分断を乗り越えて、帝国主義国家に飛躍した歴史を反復しようとする意思の表出に見える。

30代 そんな古い時代に戻ってどうする。

年金 国家が危機に陥ったとき、その回復のためにとる方法のひとつが、ルーツに帰ること、復古を目指すことだ。いま世界では復古へ向かう動きが目立ち始めている。アメリカは国がまっぶたつに割れた南北戦争の時代への、中国やロシアは皇帝が崇められた帝国の時代への、ヨーロッパは主権国家を近代世界の主役に押し上げた宗教戦争の時代への、そして私たちの国は大日本帝国の時代への回帰願望を強めているように見える。

30代 なぜそこに戻りたがっているんだ。

年金 それらの時代はいずれも、それれることを意味する。
核でいくら脅し合ったところで、それで勝敗が決することはない。脅しではなく実際に使えば、どちらも勝者になれない。通常兵器の使用だけにどめたとしても、それによって受ける経済的なダメージは、最終目標である覇権を握る力を減退させる。

東西冷戦の勝敗を決したのは経済の力の差だった。統制経済は、ある程度まで計算可能な工業化には適していたが、自

それぞれの地域が世界に向けて発展し始めた時代、あるいはその前段階の時代にほかならない。現在が衰退の危機にさらされている時代だからであり、復古の願望は、かつての発展の活力を再現しようとする願望でもある。

奴隷制の廃止を主張する北部が、その制度の維持を求める南部に勝利した南北戦争は、奴隷労働から賃労働への転換、言い換えれば労働力の商品化を加速し、アメリカを世界一の資本主義国に発展させる契機となった。

それによって握った覇権はいま、中国の膨張によって後退を余儀なくされている。それをね返すため、現在のアメリカは南北戦争によって手にした発展のエネルギーをふたたび得ようと、あの時代を形を変えて反復したがつている。

トランプが受諾演説をした共和党の全国大会では、中国車の輸入の制限や中国に対する最恵国待遇の撤回など対中強硬策を盛り込んだ政策綱領が採択されたと報じられている。この保護買

由な市場にまかせざるほかない第3次産業の成長には適していなかった。そのため、ソ連経済はアメリカに大幅な遅れをとり、自壊するほかなかつた。

30代 ロシアのウクライナ侵略戦争は、世界が古典的な流血の戦争の時代に逆戻りしたことを告げているのではないか。

年金 ロシアが流血の戦争を仕掛けたのは、西側を相手に無血の戦争を続けられるほどの経済力を欠いていたからだ。武器とするに足るほどの経済力が不足している。

中国はそうではない。硬直したソ連経済を尻目に資本主義化に成功し、アメリカに脅威を与えるほどの経済的な武器を手にした。台湾に対してもそれができる。武力に頼ってしまうと、仮に統一に成功したとしても、そこに蓄積されていた富は大きく損傷され、修復に膨大なコストを要する。その損得勘定が台湾有事の歯止めのひとつになつている。

ニュース日記 932
中村 礼治

復古へ向かう世界